

令和7年度 歌島中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

◆3年生チャレンジテストの課題と対策

【国語】

1. 「情報の扱い方に関する事項」の対策

複数の資料を扱う活動を意図的に増やし、「情報を選び出す力」から「情報を活用する力」へのステップアップを図ります。

資料の比較・統合練習: 文章だけでなく、図表、グラフ、写真などの複数の資料を読み込み、それらを関連付けて解釈する練習を授業や宿題に取り入れます。

構成・表現の指導の強化: 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の活動において、情報をもとに自分の考えを論理的に構成する手順(例:主張→根拠→結論)を明確に指導し、構成メモやアウトライン作成の練習をします。

「推敲」の習慣化: 記述問題や作文の練習において、内容の要点や表現の適切さに着目して自分の文章を客観的に見直す時間を確保し、推敲の重要性を指導します。

2. 「短答式」問題への対策

基礎知識の定着度と、それを簡潔にアウトプットする力を養成します。

語彙・文法事項の定着: 語句の意味、文法の知識、慣用句などの基礎的な事項について、小テストやドリル学習を定期的に行い、知識の正確なインプット・アウトプットを習慣化します。

正確な抜き出し練習: 文章中の答えとなる部分を過不足なく正確に抜き出す練習を繰り返し行い、指示に従って解答する力を高めます。

3. 無解答率の改善と時間配分の指導

生徒の粘り強さと、全問に解答しようとする意欲を高めます。

記述への抵抗感の軽減: 「完璧な文章でなくても、まず書く」ことを推奨し、簡単なキーワードや骨子だけでも記述する訓練を初期段階で取り入れます。

時間配分の意識付け: 演習問題や模擬テストの実施時に、各大問や設問にかける目安の時間を設定させ、残り時間を意識しながら解答を進める練習を繰り返す。特に、難しい問題に固執せず、一旦飛ばして他の問題を解き進める時間配分の戦略を指導します。

【社会】

1. 知識の「定着」から「活用」への移行

単なる暗記ではなく、知識がどのように役立つかを理解させる学習活動を強化します。

因果関係の重視: 歴史では、出来事の原因、結果をセットで覚えるように指導します。「なぜその出来事が起こったのか」「その結果何が変わったのか」を問いつける活動を取り入れます。

地理的背景の理解: 地理では、産業や地域の特色について、「なぜその場所に立地しているのか」「そのことによるメリット・デメリットは何か」を説明させる指導を徹底します。

2. 資料読解・論理的記述力養成の強化

社会科の記述問題の「型」を習得させ、思考過程を明確にする訓練を行います。

記述の段階的指導:

キーワード抽出: 資料から解答に必要な情報と、背景知識から必要な用語を抜き出す。

構成の型: 「〇〇という事実から、△△と考える。その背景には××がある。」など、論理的な型を提示し、それに当てはめて文章を作成させる。

多角的な分析練習(記述式対策): 歴史的分野の記述問題(設問(4)①など)対策として、複数の要因(例:経済的側面、政治的側面、社会・文化的側面など)に着目して資料を読み解き、結論を導く練習を重点的に行います。

短答式・用語訓練: 用語の定義を正確に書かせる\*\*「用語の言い換え」練習や、資料中の空欄に文脈に合う用語\*\*を的確に埋める演習を日常的に行います。

3. 全問解答への意識付けと時間管理

無解答率を下げるための指導を行います。

粘り強さの育成: 記述式問題において、「完璧でなくても良いから、資料の言葉を使って、知っている知識を少しでも書く」という姿勢を指導し、部分点獲得を目指すよう促します。

時間配分の指導: 問題演習時、各大問にかける目安の時間を意識させ、時間内に全問に取り組むための計画的な解き方を身につかせます。